

専門試験－上級－心理

〔 No. 1 〕 明順応, 暗順応に関する次の文中のア～ウに入るものがいずれも妥当なのはどれか。

暗い場所から明るい場所に移ると, 一瞬まぶしく感じて周囲が見えないが, すぐに周囲が見えるようになる。これを明順応というが, これは視覚系の受容器の働きが, に移行することで生じる現象である。逆に, 明るい場所から暗い場所へ移った際の視覚系の順応を暗順応という。なお, 明順応時に同じ明るさで見えていた赤色と青色は, 暗順応時にはの方が明るく見える。これはと呼ばれている。

- | | ア | イ | ウ |
|----|--------|----|-----------|
| 1. | 桿体から錐体 | 青色 | プレグナンツの傾向 |
| 2. | 桿体から錐体 | 青色 | プルキンエ現象 |
| 3. | 桿体から錐体 | 赤色 | プレグナンツの傾向 |
| 4. | 錐体から桿体 | 青色 | プレグナンツの傾向 |
| 5. | 錐体から桿体 | 赤色 | プルキンエ現象 |

〔 No. 2 〕 次のうち、部分強化効果に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 味覚刺激と吐き気の連合は形成されやすい一方、光と吐き気の連合は形成されにくいというように刺激と反応の間で生得的に選択的關係があること。
2. 刺激Aに類似した刺激Bに般化が生じている場合に、刺激Aのみに選択的に無条件刺激を伴わせる手続きを繰り返すと、刺激Aのみに条件反応が生じるようになること。
3. たとえばベルの音と餌を対提示して、ベルの音に対して唾液が出るように犬を条件づけた後、ベルの音と光を対提示する手続きを繰り返すと、光に対して条件反応が形成されること。
4. オペラント条件づけにおいて、特定の望ましい反応にだけ強化を伴わせると、その反応の生起率が上昇し、他の反応の生起率が減少すること。
5. オペラント条件づけを行う際に、反応に対して必ず強化を与えるよりも、時々強化を与える方が、成立した反応が消去されにくいこと。

[No. 3] ベイトソン (Bateson, G.) が唱え、家族療法に影響を与えた「ダブルバインド」の説明として妥当なのはどれか。

1. 両親世代の問題が子供の世代に伝播^{でんぱ}される家族投影過程が、多世代にわたり生じることである。例えば、父親の持っている自分の母親に対する問題が、形を変えて、子供の母親に対する問題となっていることをいう。実際の治療では家系図を用いることもある。
2. 否定的な意味を肯定的な枠組みに変えることである。例えば、「子供の問題に無関心な父親」と不満を持つ母親に対し、「口出しせずに見守ることができている父親」と表現を変えることで情緒的色彩を構築し直し、問題解決の糸口にする。
3. 家族のサブシステム間の境界線である世代間境界が侵害されることである。例えば、いわゆる母子密着は夫婦サブシステムと子供サブシステムの境界が不明瞭になったことによって生じた事態と考えられる。
4. 二者関係で、一方が言語レベルであるメッセージを発しつつ、非言語レベルではそのメッセージと衝突するメッセージを発することである。例えば、手をつなごうとした子供に、母親が身をこわばらせ、子供が手を引っ込めると、「私のこと好きじゃないの？」と母親が尋ねるような状況である。
5. 症状や行動をあえてやってみるように指示することである。指示に従えば症状のコントロールができたことになり、従わなければ症状をあきらめることになるので、いずれにしても症状の克服に結び付くことになる。